



〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.saintnoah-kasukabe.jp



5月誕生日会

美味しいお弁当を作ろう ゲーム

～目次～

- 病院短信 大西 景子
- 日常の一コマ 栗原 美子
- いきいき看護・介護 酒井 紀美子
- 栄養科だより 穴久保 沙耶香
- 5月誕生日会 デイルームにて
- スタッフ紹介 井出 利恵子

6月の予定

◇誕生日会

1病棟	6月 8日(月)
2病棟	6月12日(金)
3病棟	6月 9日(火)
各病棟デイルーム 14:00～	



スタッフ紹介

1病棟 看護師

趣味：野菜を育てること

私の趣味は野菜を育てることです。日本の食料自給率はなんと実質9%。家畜の輸入による餌を引いたら実質この数字なのだそう。なので私は5月からプランターで、ナスやピーマン、プチトマトの苗を購入して育て始めています。寒くなったり、暑くなったり、でこぼこな気候ですが、すくすく元気に育っています。6月の収穫がとても楽しみです。



病院短信

2病棟 看護師長 大西 景子

あじさいの花も色づき、いよいよ梅雨の時期となりましたね。皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

この時期は朝夕の気温差や気圧の変化などで私たちも食欲が落ちたり、なかなか睡眠がとれなかったりと、体調を崩しやすくなります。特に高齢の患者さんが多い当院では、飲み込む力が弱くなったり、食欲が落ちたりと、これまでのように美味しく食事を摂ることが難しくなる患者さんが増えています。

「食べたい気持ちはあるのにむせてしまう」「一口しか食べられない、飲み込めない」または「食べたくない」といった姿を目にすることが多くあります。そのような中でも私たちスタッフが心掛けていることは、

【できるだけ口から食べていただくこと】
です。点滴で栄養を補うことも必要な場面はありますが、食べ物の味や香りを感じることは、心の満足や、その人らしい暮らしに繋がる大切な時間だと私たちは思っています。

「何なら食べていただけたらいい」
「好きだったものは何だろう」
「この大きさ、柔らかさなら食べることができ

るかな…」
スタッフ皆で相談しながら、食事の形態を工夫したり、少量でも食べやすいものを考えたりと、毎日試行錯誤を重ねています。なかなか食事が進まず、悩むこともあります。それでも、「おいしい」と微笑んでくださった時や、少しでも口か

ら食べられた時の穏やかな表情には、私たち自身が暖かい気持ちになり、励まされています。

ご入院中の患者さんの「食べる力」は、体調や気持ちの状態によって大きく変わりますし、高齢による体調不良やその他の疾患の状態によっては、口から食べることが難しくなることもあります。やむを得ず、胃ろう（胃に直接栄養分を入れる）や点滴によって栄養を支えている患者さんもおられます。

ですが、私たちは食べられる、食べられないだけで診るのではなく、『食』がどのような形であっても、その患者さんが安心して穏やかに入院生活を過ごせることを大切にしています。そして、それぞれの患者さんの『食』を中心に、患者さんやご家族の気持ちに寄り添いながら、その患者さんが最後までその人らしく過ごせるように、関わらせていただきたいと思います。

私たちの病院では、たとえ今の医療で認知症を治すことが出来なくても、前述したように患者さんが心穏やかに、安心して入院生活を送れるよう、毎日の看護、介護を行っています。その上で、どんな時でも優しい声掛けや笑顔、安心できる関りを心がけています。

これからも患者さんが『その人らしく』入院生活を送れますように、スタッフ皆で支えていきたいと思っています。



日常の一コマ

今月は2病棟の聖さん（86歳）の一コマをご紹介します。聖さんは東京都生まれ、7人姉妹の3番目です。高校卒業後に会社員となり、22歳頃にご結婚されました。そして3人のお子さんに恵まれ、仕事はご主人の印刷業の手伝いをされていました。60歳頃には民生委員を務めており、ご長寿大学にも通い、趣味の書道のサークルにも入っていました。その後平成23年71歳の頃、ご主人が他界され長女と二人暮らしになり、75歳でアルツハイマー型認知症と診断されました。

令和2年、興奮状態や、些細なことで怒ったり、暴力行為が出現するようになり、施設に入所しました。その後意識消失を何度か繰り返すようになります。翌年、洞不全症候群と診断され、ペースメーカーを挿入しましたが、その後も何度か意識消失がありました。

令和4年に暴言や暴力、徘徊、拒薬、不眠等があり、施設での対応困難なため当院に入院となりました。

入院当初は、時々介護抵抗や暴力行為、イライラして物にあたる、ブツブツ独語で文句を言う等ありました。一時的に食事摂取できず、体力が落ちた時期もありましたが、今では栄養補助食品を毎食しっかり食べ、精神的にも穏やかになり、よく笑顔が見られるようになりました。



お名前は聖（せい）さんですが、面会に来られる娘さんがいつも「セイコちゃん」と声かけされていて、笑顔で返事をする聖さん。最近、私もマネして「セイコちゃん！」と呼びかけると、「なあにー？」と微笑んでくれます。

大好物のお寿司、うなぎ、甘い物…。「セイコちゃん、今度一緒にお寿司食べに行きましょうね」と私が言うと笑顔。「セイコちゃんのおごりでね」と言う「そーね」と笑顔。

優しい目元と口元が印象的なチャーミングな聖さん。最近では以前のように怒ることもほとんどなくなりました。

これからも「セイコちゃん！」と声をかけながら、聖さんの笑顔を引き出す機会を増やしていきたいです。
2病棟看護主任 栗原 美子

いきいき看護・介護

2病棟介護福祉士 酒井 紀美子

6月は湿気が多く体調を崩しやすい季節です。

日によっては汗ばむ事もあり、体調管理に気をつけたい時期です。

床が滑りやすくなるため、転倒にも注意が必要です。

室内で楽しく過ごせる工夫として、言葉の体操を取り入れてみませんか。

たとえば

ア あいさつで心も元気な一日／雨の日も
ゆっくり過ごそう

イ いつまでも笑顔を大切に

ウ うれしいね 話す時間が宝物

エ えがおでみんながつながる

オ おだやかに今日もゆっくり過ごそう

など、やさしい言葉や季節を感じる内容は会話のきっかけにもなります。

みんなで声に出して読むことで口の体操や認知機能の維持にもつながります。

私自身も若い時にくらべると忘れっぽくなってきていますが、思いやりだけは忘れずに、今後も笑顔で患者さんに寄りそっていききたいと思えます。



栄養科 だより

管理栄養士 穴久保 沙耶香



こんにちは。ご存じでしょうか？6月4日～10日は「歯と口の健康週間」です。

今年のテーマは【歯磨きは 体を守る 最前線】です。

歯の健康が損なわれると、噛む力が低下してしまいます。噛めないからと食事量や種類が減ると、体重が減少し身体全体の健康状態の悪化にもつながります。また、お口の衛生状態が悪くなると、唾液が減り細菌が増殖し口臭がきつくなるだけでなく、誤嚥の危険性が高まります。唾液の分泌は、よく噛むことで増えます。また水分を多くとること、会話や音読などでお口をよく動かすことでも唾液が増えるため意識して行いましょう。「一口で30回噛む」といった目安は広く知られていますね。普段のお食事で数えながら噛むのはなかなか大変ですし、個人的には食事の楽しみが半減する気も致します。そこで、噛む力を弱めないためにおすすめなのは、根菜類などや固めのお野菜を使った料理を1品は意識して食べることです。自然と噛む回数が多くなります。

今の時期ですと、固めのお野菜としてアスパラが旬です。アスパラを選ぶ際は、茎がまっすぐで穂先がひらいていないもの、切り口がみずみずしいものが良いです。おススメのレシピは、ずばりタンパク質も一緒にとれる『アスパラの肉巻き』です！シンプルに塩コショウでも、甘辛タレにからめても、どちらも美味しいですね。しゃぶしゃぶ用など薄切りの豚肉を使用すると、巻きやすくおすすめです。おいしく食べてよく噛んで、しっかり歯磨きをしましょう。

